日本の国会議員との会合におけるベニグノ・フィティアル知事の挨拶
2010年5月8日（土）午前10時　知事公邸会議室

おはようございます。

北マリアナ諸島の人々を代表して、私と副知事のエロイ・イノスは、皆様を心から歓迎します。北マリアナ諸島連邦にようこそ。サイパンにようこそ。

日本の国会議員の方々、特に、日本の政権与党である民主党の皆様がおいでくださったことをたいへん光栄に思います。わざわざ起こしくださってありがとうございます。

本日は、私の弟であるグウアハン知事のフェリックス・カマチョも来てくれています。参加してくれてどうもありがとう。

本題に入る前に、この機会をいただいて、天皇皇后両陛下が、2005年6月に当地を訪問してくださったことは、歴史的な訪問でありまして、北マリアナ諸島連邦を代表して天皇皇后陛下に心から敬意を表します。

両陛下におかれましては、戦争犠牲者の慰霊のために海外を訪問するのは、皇族として初めてであり、また、第二次大戦で犠牲になった韓国人のために、彼らのために作られた慰霊碑を訪問し、慰霊するのもはじめてでありました。

1914年から1944年まで30年間に渡って日本の政治的な家族のメンバーであった我が諸島にとりましては、両陛下の訪問はたいへん光栄なものでした。比較的歴史の浅い我が諸島にとって、日本は、私たちの文化、習慣、伝統に多くの影響を与えてきました。多くの優れた価値観は、今日においてもまだ、残っています。私たちは、いまでも感謝続けています。

普天間の米海兵隊飛行基地からの部隊の予定されている移転に関しては、国際的にもたいへん注目されている問題であることを私たちは理解しています。また、鳩山総理が、この問題を5月末までに解決しよとする個人的な期限を設けていることも理解しています。

この問題の議論の中で、北マリアナ諸島連邦とグアハンが、部隊の移転先の代替地の候補と考えられるようになりました。特に、この議論に参加している政府関係者の何人かは、ある程度の海兵隊員を、米軍が三分の二の土地の借地権を有するテニアン島に移設する可能性に関して、しばしば言及しております。

テニアン島が部隊の移転先となりうるという考えが出てからは、多くの議論が巻き起こり、また、国際的な注目を受けることになりました。

この可能性を予想して、私は、住民の懸念やこの地域において提案されている軍事施設の増大による経済的な影響といった問題に対応するために、北マリアナ諸島連邦軍統合マネジメント会議を設置しました。数ヶ月前には、グアハンと北マリアナ諸島連邦の両方の地域において、環境影響調査を実施しました。

現在、この調査の結果と米国政府と日本政府の決定を待っているのですが、私の政府は、この件に関しては一貫した姿勢を貫いています。

他のアジア太平洋地域の多くの国と同様に、北マリアナ諸島連邦も経済の回復と我々の島と住民のためのより良い発展を望んでいます。米国部隊の将来の移転先となることを考慮するのは、当連邦にとっては、それが経済的にはたいへん大きな機会をもたらしてくれる可能性が非常に高いということです。そして、他の国と同様に、その後にどんな影響を及ぼすかを心配していました。

現場や国際的なレベルでの議論はさておいて、私と副知事は、この基地の問題は、日本と米国の2006年の合意による結果と理解しており、あくまでもその理解を変えるつもりはありません。私が強調したいのは、北マリアナ諸島連邦は、この交渉に一切かかわっていないということです。

このため、私の政府の立場は、軍事基地と訓練所の場所となる考えを受け入れますが、現存する日米合意を尊重して、米国と日本の合意事項に関して干渉することは差し控えたいということを繰り返し申し上げています。

それにもかかわらず、もし、米国政府が北マリアナ諸島連邦に部隊を移転することを支持するなら、私の政府は、この移動を喜んで受け入れますし、社会的、経済的な問題などすべての課題は完全に適切に対処します。

北マリアナ諸島連邦は、日本との関係を重要と思って受け入れてきました。長い間、我々の島は日本人の観光客の中心的な目的地でした。この地域においては、たいへん厳しい状況が続いていますが、私たちは、回復ももうすぐと期待しています。このために、私は、皆様に、日本の市場における私たちの経済基盤を強化するような支援をお願いいたします。私たちは、日本からの観光客、航空会社、投資が増えることを期待しています。皆様方のご支援により、北マリアナ諸島連邦と日本の経済関係が刷新され強化されると確信します。

我が連邦は、日本のあたたかく生命を尊重する精神により救われています。それほど昔ではありませんが、新生児が先天的な心臓病と診断されました。数日後に、手術のためにサンディエゴの病院に連れて行くために飛行機に乗せましたが、途中、名古屋空港で重症の状態になりました。医師団は、その赤ちゃんは飛行を続けるのは無理で、ただちに名古屋で治療を受ける必要があると判断しました。加藤氏の寛大なご支援のお陰で、その赤ちゃんは愛知小児病院で9時間に渡る手術を受けました。その間、加藤氏は、その赤ちゃんの両親の宿泊を世話しました。

日本における6ヶ月間のすばらしい治療で、家族は奇跡の赤ちゃんを連れてサイパンに戻りました。その後、北マリアナ諸島連邦は5人の赤ちゃんを愛知小児病院に送り、全員が無事治療を受けました。

この経験から、患者を日本に送るという住民の健康のための北マリアナ諸島連邦と日本との新たな関係が構築されました。日本での治療費が他国の治療費の三分の一とわかり、より安い費用で質の高い医療を受けることができました。日本の寛大な友人たちのお陰で、北マリアナ諸島連邦の患者は、有名な名古屋市立大学病院でも治療を受けています。この様な機会をいただいたことを心から御礼します。

日本からの多大なご支援に対して、私からは友情をもって皆様を歓迎いたします。もし、民主党から米国政府に対して伝えたい事がありましたら、私たちは、喜んで民主党と米国の仲立ちをしたいと思います。皆様の訪問とご支援を受けましてたいへん光栄です。北マリアナ諸国連邦は、どんなご支援もする所存です。

最後に、今回のご訪問ありがとうございます。どうぞ当地でのご滞在を楽しんでください。ありがとうございました。